

## 2-(3) スルメイカ資源調査

足立 惣平

### 目的

スルメイカは、日本周辺を回遊しながら生活している。鳥取県におけるスルメイカは、孵化後に日本海を北上する北上回遊群、産卵のため南下する南下回遊群がそれぞれ、春季と冬季に漁獲される主要な漁獲対象種である。スルメイカの漁獲量は近年全国的な減少傾向が認められ、境漁港においては 1971 年の 31,800 トンをピークに以後減少し、2007 年以降は 1,000 トン以下にまで落ち込んだ。本調査は、今後の資源動向を把握するために釣獲試験、精密測定を実施し、基礎知見を得ることを目的として行った。

### 方法

以下の項目について調査を行った。

#### ① 水揚状況のとりまとめ

主要水揚港である境漁港において、スルメイカの水揚量や生殖腺指數等を算出し、資源動向を把握した。境漁港に水揚げされた本種を各銘柄 1~2 箱ずつ入手し、全個体について生物測定を行い外套膜長・体重・生殖腺重量等を測定した。水揚量は、測定結果から 1 箱当たりの平均重量を算出し、合計水揚箱数に乗じて算出した。

#### ② スルメイカ釣獲調査

2024 年 4 月、6 月、11 月に試験船第一鳥取丸を用いた自動イカ釣機による釣獲試験を実施し、漁場の位置や来遊状況を調査した。採集した最大 50 個体を対象に生物測定を行い、外套膜長・体重・生殖腺重量等を測定した。また、6~7 月には国立研究開発法人水産研究・教育機構が主体となり鳥取県、兵庫県、福井県、石川県、富山県、新潟県、山形県、北海道が参加し、スルメイカ資源量を推定するため一斉釣獲試験を実施し、す-1 線（前章図 5）で釣獲試験を実施した。なお、調査結果は、操業終了後ただちに結果を取りまとめ、船上から水産試験場を経由し、漁協等の関係機関に情報提供した。

### 結果

#### ① 水揚状況

2024 年の境漁港における漁船規模別月別銘柄別水揚量を表 1 に、小型イカ釣船（総トン数 10~30 トン）によるスルメイカ水揚量（生鮮）の推移を図 1、小型イカ釣船によるスルメイカ月別水揚

量（生鮮）の推移を図 2 にそれぞれ示した。2024 年の境漁港では、中型イカ釣船（総トン数 30~138 トン）による水揚げは認められなかった。小型イカ釣船による水揚量は合計 199 トンを示し、前年と平年（直近 10 年）を下回った（前年比 57%，平年比 69%）。2024 年における月別の水揚量は、近年水揚量が増加する 1~4 月は前年同様に低調に推移し、10~11 月に平年を上回った（図 2）。

#### ② スルメイカ釣獲調査

調査位置および調査結果を表 2 に示した。2024 年の釣獲試験は、すべての調査で低調だった前年をさらに下回った。スルメイカ漁場一斉調査は、6 月下旬に 3 定点で調査を実施し、3 定点中 2 定点で、CPUE が前年を上回った。残り 1 定点は時化のため欠測となった。

CPUE が前年を上回った定点もあったが、釣獲調査結果は概ね低調だったことから、2024 年の釣獲試験期間における鳥取県沿岸域のスルメイカ来遊量は前年と同様に低調だったと考えられる。しかし、境港における小型イカ釣船によるスルメイカ月別水揚量（生鮮）は、釣獲調査を実施していない 10 月~11 月上旬に平年を上回る水揚げが認められた。改良版我が国周辺の海況予測システム（FRA-ROMS2）による水温図等から、10~11 月上旬の間に局所的に接岸した冷水域に沿ってスルメイカが沖合から鳥取県沿岸域に来遊した可能性があると考えられた。

表1 小型イカ釣船(10-30トン)による境港スルメイカ月別・銘柄別水揚量

(単位:トン)

区分	月												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
入港隻数	2	22	2	12	126	94	85	60	78	242	136	0	859
19以下入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20入	0.3	2.1	0.0	0.3	3.4	2.2	1.3	1.1	2.5	29.7	15.3	0.0	58.0
25入	0.0	0.0	0.0	1.0	11.8	6.6	1.6	0.6	4.0	51.3	37.6	0.0	114.6
30入	0.0	0.0	0.0	0.9	6.2	3.9	1.0	0.2	0.4	4.0	3.5	0.0	20.2
40入	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	0.7	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
50以上入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	1.5	0.2	0.3	0.6	0.4	0.0	4.0
木箱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	0.3	2.1	0.0	2.3	22.3	14.1	6.0	2.1	7.2	85.6	56.8	0.0	198.9

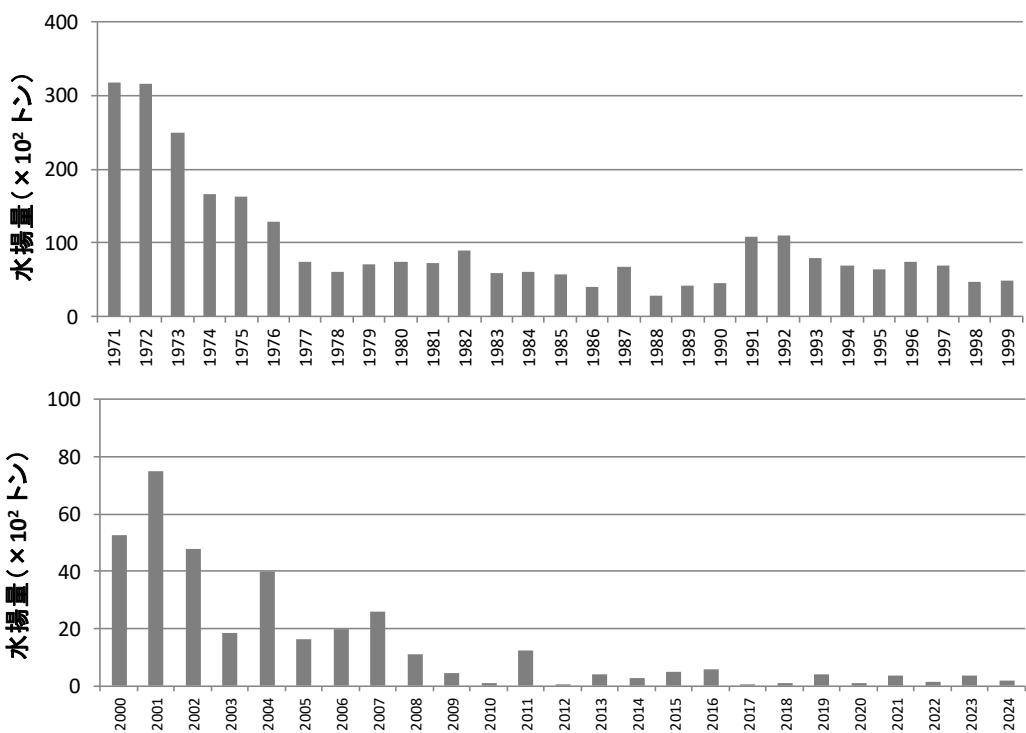


図1 境港の沖合スルメイカ水揚量(生鮮)の推移

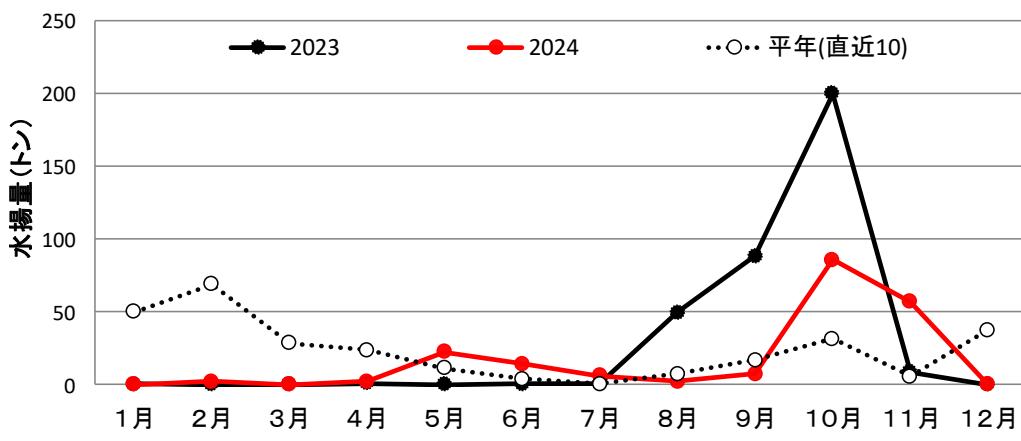


図2 境港の月別沖合スルメイカ水揚量(生鮮)の推移

表2 スルメイカ釣獲試験結果の概要

調査名	実施期日	定点番号	位置	水深(m)	釣獲尾数	CPUE (イカ釣り機1台1時間当たりの漁獲尾数)	外套長範囲(cm)	外套長モード(cm)
スルメイカ釣獲試験	4/16 6/18 11/11 11/12	N35.42 N35.35 N35.41 N35.47	E133.46 E134.00 E133.42 E133.30	94.2 54.5 70 80	16 13 0 0	0.64(1.17) 0.55(3.1) 0(0) 0(0)	16-23 12-22 - -	17 - - -
スルメイカ漁場一斉調査	6/26 - 6/17	3 13 17	N36.00 N37.40 N36.20	E132.20 E133.09 E133.00	674 - 163	1.79(0.04) - 7.85(4.07)	10-20 - 13-23	12 - 19

※()は前年同月中に行われた調査の最大CPUEを示す